

ヴェーナス通信

Venous(静脈) Venus(護美の女神)



第8号

発行人 東多摩再資源化事業協同組合
 理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
 東京都東村山市久米川町1-16-5
 TEL & FAX 0423-95-9788

新リサイクル機構を作ろう!

◇三月十三日朝のNHKテレビニュースで、「ある洋紙メーカーが、古紙配合率八〇%の新聞用紙の実用化に成功した」と放映された。

昨年の新聞用紙国内消費量は、三七四万トン(内六五万トン輸入)、その殆どが超軽量紙と言って古紙配合率が五〇%程度のものである。この配合率を一〇%増やただけで、古紙を新たに四〇万トン近く再利用できるのだ。従って、八〇%古紙配合新聞用紙は、古紙余剰問題を一気に解決できる大ニュースということになる。古紙業界としても、その実現を強く希望した。品質的には全く変わり無いのに、新聞各社はまだこれを積極的に使用する気配がない。ある経済新聞などは、さらに増ページ(朝刊四〇頁を四八頁に)するとして、逆に古紙

配合率が低下する「超々軽量紙」の使用を発表している。

◇『社会主義が集めて、資本主義が処理する』、今の資源リサイクルをこのように表現をする人がいる。

回収資源物は、価格低迷でさらにごみ化の恐れがあり、清掃行政で半強制的に回収されるようになり、集まった物は殆ど既存の国内市場に流れる。しかも物を作って売る方は、経済最優先の市場原理で動き、廃棄物処理は自治体に任せているものが多い。

資源循環型社会は、自国の市場原理だけでは成り立たず、『環境原理』を加味したグローバルな機構が必要である。環境原理に従えば、少なくとも純パルプのトイレットペーパーの生産および販売には厳しい制限が課せられる。古紙配合率八〇%の新聞用紙の使用も義務づけられるだろう。動脈産業を抑制しても静脈産

業の民活化による事業拡大を実施すれば、景気回復は可能だと思う。需要の拡大による効果よりも、血税で後始末する負の経費が高くつくからだ。

◇日本人一人当りの紙の年間使用量は、一昨年で二四六kgとなった。これは、イギリスやドイツの一・三倍、フランスの一・五倍にもなっている。まさに、我が国の紙消費量は異常であり、需要拡大は戒めて回収と再利用を推進する機構転換が急務だと叫びたい。それには、再生資源の回収コストを製造販売者が負担する義務や、再利用促進策の法制化がどうしても必要になる。その他にも、環境原理を市場原理に優先させなければならぬ問題が山積している。パブル景気の愚かさと同様に空しさを学習せず、また同じ道を歩もうとしている国情に、今こそリサイクル市民は怒りを示すときでは無いだろうか。

【直言拝聴】

国・市町村・企業・消費者 それぞれの責任と義務分担の確立を

古紙ネット事務局 長
埼玉エコ・リサイクル連絡会 理事

園田 真見子



古紙ネットは九三年四月に、紙のリサイクルの危機解決のために結成された市民全国ネットですが、五年を経過して未だ解決どころか、事態はますます悪くなるばかりで、無力さを思い知らされる日々が続いています。そんなことで、古紙ネットの事務局長としては重すぎて筆が進みませんので、立場を離れ、個人として書かせていただきます。

紙の循環システムについて五年間の活動の結果みえてきたところで、次のように考えるようになりました。

(1) 紙のリサイクルの問題はゴミ処理の問題と表裏一体となっているので、総合的に考えていくべきだと思います。

価格問題については需要と供給という市場原理にだけのことって入り口対策を考えても無理です。民間事業として古紙の回収、流通業や古紙の再生メーカーが十分に成り立つシステムを創ることと、出口対策をしてもなおかつだぶついてしまう古紙をどうするかを分けて考えていく必要があります。ドイツの循環経済法などを参考にした循環経済誘導システムを創っていくしかないのではないのでしょうか。

これはもちろん通産省にもっていく必要はありますが、環境を総合的にみている環境庁主導ですすめていくべきものでしょう。

(2) 製紙メーカーのいい分の中に「国際競争」にさらされているというのがあります。素人にはその度合いはわかりませんが、国際経済が、グリーン経済になるどころか、環境保全や国内循環にますます逆行する方向に流れているところは十分注目して考慮に入れていくべきです。

(3) ゴミ処理が現在三二〇〇の市町村に義務付けられており、そのほとんどが、税金で処理されているため、ゴミを出す人、排出者責任が問われておらず、ゴミの増大に拍車をかけてきました。早急に事業系、家庭系ゴミを全面有料制にし、キチンと排出者責任をかけるべきです。それをせずに、製造、流通事業者責任を課す法律をつくっても、中途半端なものにならないを得ません。

また、市町村の「固有の事務」とされているため、一種の「聖域」のようなものになっていて、県はもちろん、国であっても強い規制や義務付けができないということを最近聞きました。川上では物資が全国規模で生産、流通しているのに川下のゴミ処理が市町村バラバラに対応しているのでは、川上にたちうちできるはずがありません。市町村ごみ行政をまとめて産業界と互角に話し合える機関が必要です。

(4) 現在ゴミ処理費として一ト

ン当たりで公表されている数字には建設事業費や積立金は入っていません。企業が設備投資をしたら何年で減価償却するという発想で採算をはかりますが、行政の設備はその発想がないということです。予算の単年度制からきているのですが、この辺も変えていかななくてはならないと思われます。

(5)現在のゴミ行政に批判的な人たちが、批判のための批判に陥らずに、「国民の合意形成」を意識し、説得力を増していく努力をすべきです。このためには、地方のパワーをひきだことが重要だと思われます。市民グループが活発に活動しているように見えて、案外、国や産業界に意見を出すということをしていないようなのです。

紙のリサイクルばかりでなく、ダイオキシシン問題など考えるほどに悲観的になってし

まいますが、環境庁指導のグリーン購入のここ五年の動きは目をみはるものがあります。また「うれしいトレペ」の誕生はとてうれしいニュースです。経過をご紹介しますと、去年の八月と九月に二回静岡製紙工業の石川さんが古紙ネットをたずねてみえ、環境やだぶつき問題への意見に通じるものがありました。その後、一〇月に静岡の市民グループと古紙ネットの出会いがあり、一二月に合同見学会が実施されました。ここま

です。一ケース、一〇〇コで送料込み首都圏二五五〇円ですの一度ためしてみてください。

私は埼玉県の志木市というところに住んでいます。志木市では全員公募の「環境市民会議」がはじまり、環境基本計画作成中です。またそれに先立って市民グループ「エコシティ志木」が環境プランをこの三月発表したところです。私はごみダイエットプランを担当しましたがとてもよい勉強になりました。

埼玉県庁では「彩の国ごみゼロプラン」を策定し、「有機一〇〇倍運動」「ダイオキシン削減検討委員会」などの活動があります。いづれも県民とのパートナーシップ、協働をベースにすすめられています。これらにかかわる毎日

た気持ちもいだけつつあることをご報告します。



リサイクル川柳

温暖化 古紙業界は 冷凍化

特捜とハウスで再利用

段ボール

不景気がごみ問題の特効薬

リサイクルに我関せずの

族議員

(虚 視)

牛乳パックの話

初めに三者のルール有り

(株)山田洋治商店

リサイクル事業課 山本信之

これからの環境の問題を紙パックのリサイクルの現状と重ね併せて見ると、企業、行政、消費者が共同してリサイクルシステムを構築しなければ一向に前進しないと思えます。

さて紙パックのリサイクルにかけた情熱を今思えば、並大抵な事ではなかったと云えます。山梨の婦人団体から相談を持ち掛けられたのは一〇数年前のことになります。一〇〇%パルプの紙パックがただ捨てられていくのは忍びないもので、どうか再利用出来ないものか、とゆうものでした。当時は産業古紙ラミネートとしての商流はあったものの、紙パックと言う商品名自体もなく、全くゼロからのスタートでした。一口でい

ば再生原料として商流の確保ということになります。回収のルート作りを業者として受け持つこと自体、容易ではありません。団体さんの一杯と、業者の回収再生の採算ベ

ースとはかなりの量的な開きがあり、実際に一日の回収量が一〇〇kg〜二〇〇kgの実績が毎日のことです。これでは業として成り立つのが難しく、二〜三年間のボランテニア活動を余儀なくされました。

このような初めての仕事は運動の継続性こそが大事であることを支えとしました。

その中で幾つかのルールが生まれました。何千、何万世帯もの消費者の方々が今までポイッと捨てていた紙パックを、良く洗い、乾かし、集める、という作業を受け持ち、

尚かつ、紙パックで出来た製品を購入する事を、出せば買う”という意識を持つ事により回収コストと製紙メーカーのコストを守って頂くということが一つ。

消費者と当社(再生資源業者)の信頼関係を確固とするためにも、“紙パックのリサイクル”に真剣に取り組んでくれるメーカーを選定するところが一つ。

そのリサイクル製品の生産のために(紙パックなど見向きもされなかったあの時期に)社名を賭けて莫大な設備投資をするメーカーの態勢が一つ。

当時この三者に出来る最大の体力を掛けた努力、出費によって生まれた三つのルールにより、紙パックのリサイクル品としてのトレットペーパーが世に認知されたのである。この条件は今後も変わらないことであろう。スタート時の苦しい期間を

三者共に同じ苦しみを経験し乗り越えるためのプログラムを実行できたことが、今も継続できている原動力になっていると思います。この三者のうち一つでも意見を無視していたら進むことはできなかったでしょう。今思えば昨今よく言われていながら崩壊してしまいがちな三者一体のリサイクルの走りだったのです。

紙パックの回収運動を影で支えてきて下さった皆様方、この場を借りて改めてお礼を申しあげます。

最近の危惧すべき動きとしては、前述してきた三者の意志確認と共同性を全く無視した事態が起きていることです。

一部メーカーからの紙パック注文の一方的な打診や、ある自治体では築きあげてきたリサイクルルートを壊してまで雑誌と同じに扱い、今まで頑張ってきた業者を簡単に切り捨てるなど憂慮すべき状況

が現れています。

明るい話題としては、提携先のメーカー丸富製紙が昨年、日本のメーカーで初めて、世界環境基準であるISO14001を本社工場で取得、続いて今泉工場、沼津工場、と続けて取得しました。ちなみに世界でも二、三、四、番目の取得だそうです。

紙パックのリサイクルが世界に認知されたのだと言えるでしょう。

同社では紙パックのポリエチレンの完全処理のプラントも最新式のを設置し工場の重油使用はほとんどゼロという。消費者と相互信頼を基礎としたメーカーの責任ある態度の表れではないだろうか。

リサイクルは行政、団体、消費者、メーカー、再生資源業者が相互に共有できる自覚とそれに基づいた行動が不可欠の条件だと思います。

古紙一〇〇%のトイレットペーパーの普及に取り組む

組合は四月九日、富士市の春日製紙工業と富士宮市の静岡製紙工業を見学した。

この工場見学の目的は古紙を原料にした製品（今回はトイレットペーパーを中心に）の使用を今まで以上に促進しようというための企画であった。

春日製紙では柔らかさ、水溶性も消費者の要求に十分応えられる製品として新聞古紙四〇%を配合したトイレットペーパーを開発し、利用拡大をはかっている。同社ではかつて一〇〇%新聞古紙のトイレットペーパーを製品化したことが、あまり評判がよくなく、改良を重ね、今回の製品となったものである。なお同社はせんか紙と家庭紙を一つの工場で作造していて、研究開発

など非常に高い技術力を持っている印象を受けた。

静岡製紙は雑古紙一〇〇%のトイレットペーパーを製造して古紙ネットなどの市民団体と連携を強め普及に力を入れている。同社の製品の特徴は漂白に薬品を使用せず、水洗のみで白さを出している。入荷した雑古紙の原料により、出来上がった製品にも白さが異なっているので手造りといった感じがでていた。

また機密書類なども段ボールに詰めたまま地球釜に入れてトイレットペーパーの原料にしていた。

この二社を見学して感じた事は、大製紙会社と違って、独自の製造工程を模索手造りしながら、消費者に小回りのきく製品開発に努力している

ことである。

使い捨ててしまうトイレットペーパーとしては二社の製品でもその用を足すには十分であると思われる。

現在のような大量の古紙余りの状況で、二社の生産量はほんの微々たるものであるが再生品をより有効に使用するための一つの突破口として我が組合でも積極的に利用拡大を図っていきたい。その第一段階として行政機関や学校、市民団体に率先して取り上げてもらいたいトイレットペーパーは再生品が当たり前という事実を一般に定着させてゆきたい。

(奥山慎吾)

研修会に参加して

三月二十八日、久米川ボールにて従業員の意識向上と安全作業を主軸とした東多摩再資協研修会が執り行なわれた。

冒頭で理事長による組合組織の構成及び規則、各委員長

による委員会の役割など簡略な説明を受けた。続いて車両の扱い等安全作業のための細かい項目を要項順に口頭で補足説明を加えながら研修会が行われた。

新年度を控え組合の方針を改めて把握できたこと、これからも安全を第一に心掛ける重要さを確認できたことなど非常に有意義な研修会であった。(小石義信)

小平リサイクルセンター
無事故1500日を記録

次の目標3000日!

副理事長 藤野 昭吾
小平リサイクルセンターは、平成六年二月オープン以来、今年四月に無事故1500日を達成した。当センターは、小平市から委託業務を請けた東多摩再資源化事業協同組合

が市内から集められたビン・缶・ボロ布・ペットボトル等を選分加工して、ゴミ減量と再資源化している基地である。

常時十三名から十九名の従業員が従事しており、今まで小さなケガ等があったが事故・大ケガで入院する事は無かった。オープン以来組合はもちろん行政、特に現場の所長が安全第一を掲げ、叱咤激励してくれた事、また従業員一人一人が充分気を付けて作業にたずさわったから出来た記録と思います。

現在の社会は不況の真つただ中です。我々業界は水面下でなく水中深く沈んでもがいている中、明るい話題でホッとしています。

次の目標は3000日!目標に向かって今まで以上に気を引き締めて安全第一と明るい職場を目指して誠心誠意皆さんと共に頑張ってください。

おめでとうございます

市民功労賞に組合から三氏表彰

四月二五日東村山市では、平成十年度の市民功労表彰式

が執り行なわれ、当組合からも資源リサイクル業界として初めて相談役と理事長ら三名が細湊市長より表彰され、晴れの栄誉に浴した。

◎藤野 操氏(七七才)

昭和三八年多摩湖町に資源回収問屋・藤野商店を開設し、当市のリサイクル事業に貢献。東京都資源回収事業協同組合、東京金属防犯協会の理事・支部長など歴任し、現在東多摩再資源化事業協同組合相談役として業界指導にあたる。

◎吉浦力夫氏(七六才)

昭和四〇年栄町に資源回収問屋・久米川紙業設立し、当市のリサイクル事業に貢献する。東京都資源回収事業協同組合の理事・支部長など歴任し、現在東多摩再資源化事業協同

組合相談役として業界指導にあたる。

◎紺野武郎氏(五六才)

昭和四五年久米川町に資源回収問屋・三栄サービスを設立。東京都資源回収事業協同組合の副理事長、日本再生资源協同組合連常任理事、東村山市廃棄物減量審議会会長などを歴任し、現在東多摩再資源化事業協同組合理事長在任



左から、吉浦氏、藤野氏、細湊市長、紺野氏

武蔵野市で集団回収団体研修会開催

百余人の市民が参加

古紙余剰の事態を理解し改善に努力

三月三〇日武蔵野市において開かれた集団回収団体の研修会には、約百人の市民が参加し、紺野理事長が『古紙回収事業の動向』について講演した。その感想文を私なりにまとめてみた。

今回の理事長の話は、専門的な話や数値を色々な物やたとえに置き換えて、年配の方でも解りやすい内容だった。古紙に関する身近な問題点として、新聞用紙の古紙配合率やチラシの問題、N T T電話帳、残本返本の量、純パルプトイレットペーパーの使用量急増の理由など具体例を示し、市民として簡単にできる抗議運動などを提案した。紙の無駄遣いが古紙余剰化の主因であり、価格暴落につながり、市民の多額の血税を使わなければ回収できなくなっ

た推移を解き、貴重なリサイクルシステムが壊れた後の危機を市民に理解して頂いた。最後に理事長は、「一企業が、一企業が、そして一業界が、ほんの僅かな運動をするだけで何万トン何万トンの紙が節約でき、古紙の再利用もま

講演する紺野理事長



だまだ可能になる。各界の利害を越えた真剣な話し合いの中に、最良の結論が見出だせる筈で、市民の皆さんと共に運動の輪を広げたい」との言葉。本当にその通りで、そうして行かなければと痛感した。

土井健一郎

委員会だより

集団回収は一昨年から続いている古紙のだぶつきにより、価格が暴落したため各自自治体の業者助成（回収委託事業）あるいは回収団体の回収コスト負担（助成金より）がなければ、維持・継続が不可能な状態です。

しかしながら貴重な民間リサイクルシステムである集団回収が壊れれば、民間回収より何倍もコスト（税金）のかかる、行政回収に移行し、すでに飽和状態にある現有施設では、処理できないのも明らかです。

我々も集団回収の維持・継続のため最大限の努力をおしませんが、回収団体の皆様には今までと同様の御理解、御協力をお願いいたします。

今年に入り、古紙問屋では雑誌古紙の逆有償が完全実施されています。

この様な状況にに応じて、新たな助成を加えた自治体もあるようです。（小畑和夫）

柳泉園で缶作業始める

四月より柳泉園でも当組合で缶作業が加わりました。三人の人員で四市の缶を処理します。一人は選別作業でゴミ取り、あとの二人はプレス場で一〜二分の間に出てくる鉄缶とアルミ缶の塊一個九〇cm角の品物を移動、積み上げる作業です。慣れるにはもう少し時間がかかりそうです。

（石川義男）

古紙昨年より4600トン増加

古紙価格の大暴落が民間回収業者を直撃

組合の資源取扱い量は全体で5千トン近く増加し、その大部分は古紙が占める事態になった。新聞、雑誌、段ボール全品にわたって増えている。

売れない、価格はとめどなく下がる、また売れない、しかし古紙はますます集まる。この悪循環の繰り返しがごみ減量政策に重大な転向を迫る可能性がでてきている。古紙に限らずすべての再資源化にともなう問題を提起しているといえるだろう。

表1 組合扱い7市資源化,平成9年4月～平成10年3月

単位 Kg

資源物	小平	柳泉園	東村山	東久留米	東大和市	合計
新聞	1,485,210	1,697,170	831,680	89,250		4,103,310
雑誌	3,655,790	4,690,650	1,203,530	268,120		9,818,090
段ボール	1,607,650	1,845,310	386,240	171,740		4,010,940
小計	6,748,650	8,233,130	2,421,450	529,110		17,932,340
牛パック白	76,050	32,880	(10,190)			108,930
茶	1,300		(407)			1,300
小計	77,350	32,880	(10,597)			110,230
古繊維	596,705	571,160	268,980			1,436,845
カレット						
白	638,770	(1,335,640)	(658,330)			638,770
茶	285,820	(642,800)	(296,760)			285,820
緑	192,580	(297,280)	(129,740)			192,580
黒	38,820	(71,590)	(58,470)			38,820
小計	1,155,990	(2,347,310)	(1,143,300)			1,155,990
生ビン本数	382,117	(1,148,244)	(439,468)		175,104	557,221
Kg	286,589	(788,430)	(334,110)		131,328	417,917
缶プレス	653,400	(1,254,810)	(529,710)		218,480	871,880
アルミP	221,416	(491,479)	(210,000)		85,676	307,092
鉄				299,510	11,280	310,790
ペットボトル	111,230	(439,000)	(130,700)			111,230
総合計	9,851,330	8,837,170	2,690,430	828,620	446,764	22,543,084
昨年	8,368,562	5,830,090	1,897,070	1,093,990	373,541	17,563,253
世帯数	70,065	145,233	56,101	43,793	28,371	

*世帯数は平成10年4月1日。柳泉園(保谷42,670、田無32,115、東久留米43,793、清瀬26,655世帯)

*カッコ内は組合非取扱いの資源量で、総合計には加算されていない。

*小平市のペットボトルは平成10年10月より

表2 集団回収実績4市

資源物	田無	清瀬	東村山		東久留米	合計
新聞	167,149	562,548	512,756	持 301,142	1,159,767	2,402,220
雑誌	99,322	241,714	196,047	持 153,209	414,278	951,361
段ボール	64,627	102,559	83,944	持 304,171	140,934	392,064
合計	331,098	906,821	792,747	758,522	1,714,979	4,504,167

*田無H9.7～H10.3、清瀬H9.7～H10.2、東村山H9.10～H10.3、東久留米H9.7～H10.3

『私の履歴書』

②

日興紙業商事株式会社

代表取締役社長 渡邊一史

昭和三九年、アジアで初め

てオリソピックが東京で開か

れた頃、それを契機に日本の

経済も大きく急速に発展して

いった。世界中が近く感じら

れ、益々紙の需要が増えてい

く状況となってきた。又、そ

の後の情報社会の進歩により

故紙の値段が一人歩きする中

で、人間の労働力にたよって

物を動かしている紙原料業界

だけが取り残されていくよう

な気がした。

その頃、百貨店から引き取

っていた茶模造、色上、段ポ

ール、企業からのタイプ模造、

新聞社で使われたワンプ、印

刷会社や製本会社からの上白、

中白、釜入模造、並びに裁落、

一般家庭からの新聞紙、雑誌

類等々、それらを手作業で梱

包するという状態だった。特

に、段ボール箱、茶模造、ワ

ンプ、裁落はかさばり、他の業界に比べて紙原料業界の一番立ち遅れている機械化導入の必要性を強く感じ始めたのが、この頃である。

機械化実現を目指してまず思い立ったのが、紙原料の大量処理化である。スクラップのように一度に圧縮できないものかと、ふとドラム缶やドーコーを締めているプレス機に入れ、締めてみる。これがなんと上手く締まるのである。しかし、喜んで調子にのって締めるのも束の間、二十個、三十個と量がかさむと、プレス機の中に油洩れが生じてきた。よくよく調べてみると、鉄は、シリンダーが押し出すと容易に圧縮されていくのだが、紙には弾力性があるため、押し返す作用が繰返されることが原因で、ゴムパッキンに必要以上の力がかかることに気がついた。普通常識では思いもよらないことが起

こっていたのである。紙は鉄以上に圧力をかけないと、完全には締まらないことを発見した。早速プレス機械のメーカーを呼んで、我々の使い易い機械を造ってもらうことにした。これが最初の《三方締め》の機械である。幅約50cm、高さ60cm、長さ80cm位の大きさに、テープや番線もかけないで押し出されてくるものだった。それを大型トラックに六十個から八十個位積むのである。トラックに積むためのフォークも、今迄は上げ下げしかなかったが、ツメで挟み取ることができるようメーカーに注文して造ってもらった。

やればやるほど前途が広がってくる。《三方締め》より大きく、しかも効率の良いプレス機の導入を考えているうち、ドイツのリンデマン社製、又アメリカのエンタープライズ社製の梱包機(ベラー)

の存在を知り、再び国内のメーカーと話し合い、更に改良を重ねて当社独自のラージベラーを完成した。当時このような大型化を実現してゆく一方で、全く発想を転換し、段ボール、新聞、雑誌など、原形をとどめないまでに高温蒸気で蒸し上げ、小さく5、6cm位の固形にして、じょうごのようなホッパーに蓄えることも考えてみた。いわゆる原料の超小型化である。ホッパーの下に待機したダンプ車に適量積み込み、メーカーへ持ち込む方法である。今考えると、現在のような余剰の時、そのまま固形燃料としても活用することが出来る。故紙の用途開発は、私のライフワークである。とにもかくにも大型プレスの投入を図り、こうして手作業から解放し大量の故紙を能率よく処理できるようにしたことは、大きな成果であったと自負している。

哀れ！逆有償、「古紙嘆々」

◆親の代から取引して頂いていたお得意様に、段ボールの処理料を請求したら、「市の焼却場にもって行くから」と断られてしまった。

◆長い間、集団回収に協力して頂いた団体の役員さんに、「回収コストの一部ご負担をお願い」したら、喧嘩別れになってしまった。申し訳ない。

◆問屋に持って行くと雑誌は金を取られてしまう、新聞も段ボールもただ同然だけど、お得意さんの頼みは断れずに自腹を切ってきた。でもこれ以上ボランティアは続かない。

◆処理代を出すぐらいなら、「資源の日」に出せば市役所がただで片付けてくれるから来なくていいって。寂しいね。等々、リサイクルの最前線で頑張ってきた業者が泣いている。『逆有償回収』と『行政のごみ減量作戦』のハザマに立って、もがき苦しんでいる。

「金を貰ってまで商売をしたくない」そんなプライドも業界には根強く残っている。

しかし、このまま引き下げれば守り育ててきた商権を一瞬にして失ってしまう事になる。

今日もお詫びを繰り返しながら、必死に「逆有償」のお願いに走り回っている。・・・

●古紙業者

腰抜け業者に成り下がり

(T・K・O)

行行事・行動

(一月)

- 五日：仕事初め
- 十二日：定例理事会
- 十三日：保谷市廃棄物減量審
- 十九日：集団回収委員会
- 二一日：広報委員会
- 二三日：東大和廃棄物減量審
- 二四日：委託事業委員会
- 二八日：小平市廃棄物減量審
- 二九日：古紙C・業務委員会
- 三〇日：組合員研修会

(古紙汁一丸本願社長)

(二月)

- 六日：見学会 (秋幡穀納)
- (松沢紙業・新井商店)
- 七日：集団回収委員会
- 十二日：定例理事会
- 十三日：多摩医療Cで講演
- 十四日：古紙循環加江外会議
- 十八日：保谷市廃棄物減量審
- 十九日：古紙ネット会議
- 二六日：古紙C・業務委員会
- 二七日：田無市廃棄物減量審
- 二八日：辨じとん論議準備会

(三月)

- 二日：小平フェステ実行委
- 三日：広報委員会
- 六日：小平RC責任者会議
- 七日：江東消費者展シンポ
- 九日：通産省紙業課訪問
- 十一日：定例理事会
- 十二日：古紙C・理事会
- 十八日：委託事業委員会
- 二〇日：福利厚生委員会
- 二七日：財務委員会
- 二八日：従業員安全研修会
- 三〇日：武蔵野市集団回収団

ボーリング大会

(四月)

- 三日：広報委員会
- 六日：集団回収委員会
- 九日：見学会 (春日製紙)
- (静岡製紙)
- 一三日：定例理事会
- 一六日：田無市廃棄物減量審
- 二〇日：広報委員会
- 二一日：全国とことん討論会
- 二二日：日本製紙連訪問請願
- 二三日：古紙C・業務委員会
- 二四日：広報委員会
- 二七日：古紙循環加江外会議

体研修会で講演

編集後記 (吉浦)

今号に御寄稿くださいました古紙ネットの園田様、山本様すばらしい文章をありがとうございました。ヴィーナス通信も末広がり八号まで作る事ができました。私達の子孫に豊で美しい緑の大地を残す為のリサイクル機関紙にして行きますので、皆様の御意見を待ちしております。